

二、開 創（本山妙満寺との関係）

上行山法華寺の開山は、玄妙阿闍梨日什大正師で、近世まで、日蓮宗勝劣派の一派に属する京都三條南の本山妙満寺の末寺でありました。

その開基は、天正年間千藏院日慶上人であり、（一五七三〜一五九三の二〇年間の何れの年かは不詳）当時市内名須川町光台寺西隣りであったが、寛文三年（一六六三）五世日生上人の時、現在地に移轉しました。

第四世実成院日養上人の時、早く本寺を公表してその宗脈を明らかにすることによって、開基日慶上人をはじめ、諸先徳の鴻化に酬いることを思い立って、熱誠なる檀徒が上洛して本山妙満寺貫主に巨細の情々を具かに述べて、須らく顯本法華の大旆（たいはい）もとの下に、開基以来宣教の事蹟をいよいよ高揚せしめようとして、数氏の檀徒が蹶起しました。良庵、彦右衛門、與右衛門の三氏がその奉仕に当ったものと思われます。時は寛永十七年の春、遙々京都に登り、諸氏は本山妙満寺に詣で、第三十三世貫主養徳院日乘上人に謁見して来意を陳べたのです。日乘上人は、深く遠来の労と外護篤信を賞せられ且つ第四世實乘院日養上人の弘法堅持の教功を嘉し直ちにこれを允可し、法華寺中興の師と称讃して下さいました。

又、この時、筆をお執りになって、本来允可の徴（しるし）として、大曼荼羅を謹写し、これに次の様な添え書きをして下さっています。

奉爲令法久住寺檀圓滿寄附之上行山法華寺了 当寺中興之主実成院日養授与之

寛永十七年庚辰五月十七日

於洛陽妙満寺書之

これが、当山の法華寺確立の記念とすべき寺宝として現在に存するもので大切な寺宝でございます。

顕本法華宗（日什大正師）

当、上行山法華寺は、宗祖日蓮大聖人、開創千歳院日慶上人としますが、日慶上人の師事したと思われる日経上人は、顕本法華門流にして、本山を京都の勅願所妙満寺を総本山とするので、妙満寺の開基玄妙院日什大正師（顕本法華宗開祖）を、開山としております。

さて、日什大正師とはどのような上人か、また日蓮大聖人との関係はどうか、顕本法華宗とは如何なるものか、などについては、皆様には殆んど知られていないのが実情だと存じます。

日什大正師の第六百遠忌の記念出版としての伝記と、大正師の愛弟子日妙上人の第一周忌追善菩提のため著わされた「諷誦文」とその裏に残された「置文」は、大正師の宗教思想がはっきりと示される唯一のご著述であります。

この「諷誦文」には「法華経と日蓮大聖人の御遺文以外は総て無用」とされ、いわゆる『経巻相承と直授日蓮』を拠りどころとなされたのでございます。

日什大正師は、日蓮大聖人の滅後三十三年目に会津で御出生、十九歳で京都市比叡山、当時の仏教総合大学に登って勉学、三十八歳で能化の職につき、三千の学徒を教育されました。五十八歳の時に比叡山を去って会津に帰り、城主の勧めにより、その菩提寺である羽黒山東光寺の住持を引き受けられました。師の学徳を慕って三百余名の学徒が集りました。その中に日蓮大聖人の御遺文を持参した者があり、大正師はこの御遺文に接して、これこそ真の法華経信仰であると確信し、直ちに日蓮宗に改宗して「玄妙」の名を「日什」と改められました。この時御歳六十七歳、日蓮大聖人滅後百年目に当ります。

六十七歳から七十九歳までの十二年間、日蓮大聖人に帰れと説かれ、折伏布教、公家奏聞、武家諫暁、寺塔建立等に不惜身命の活躍をなされたのです。（什師会長浅井玄哲氏説参照）（文責 村井）

日蓮上人の四大法難

聖人は法華經弘通のご生涯において、数多くの法難にあわれましたが、その中でも特に「大事の難四度なり」といわれた難を、四大法難といえます。

一は、文応元年（一二六〇）八月二十七日立正安国論の献策に対し、数百人の念佛者達に松葉谷の草庵を襲われ暗殺されようとした松葉谷法難。

二は、弘長元年（一二六一）松葉谷から脱れた聖人が再び折伏伝道を開始したが、念佛者達の策謀により、五月十二日幕府の手に捕えられ伊豆の伊東へ流罪された伊豆法難。

三は、文永元年（一二六四）十一月十一日、東条の郷小松原の地で聖人と弟子や信徒が東条景信に襲われ、弟子二人が討ち死し、聖人も眉間に傷を負われた小松原法難。

四は、文永八年（一二七二）九月十二日、平頼綱に捕えられた聖人は、竜口で斬首されようとした竜口法難。後佐渡流罪となった。

日蓮宗僧侶の「位」について

日蓮宗の僧侶は、すべて等しくお祖師さまのお言葉にしたがって仏法を修了するとともに、人びとを導きます。一方、古くからのしきたりにより、教師の位を僧階と呼ぶ十二の階級に分けています。

1大僧正、2権大僧正、3僧正、4権僧正、5大僧都、6権大僧都、7僧都、8権僧都、9大講師、10権大講師、11講師、12准講師

これらの僧階は、僧侶の修行歴と宗門への貢献度により、宗門から授与されるものです。

因みに第二十四世日昌上人は権大僧正、現二十五世日觀上人は現在権僧正に叙されており。